

「不易流行」

よき伝統を守りながら(不易)

進歩に目を閉ざさないこと(流行)によって

「理想」を創造する

令和の時代をむかえ

動き始める新庁舎整備

長年の懸案事項だった役場の新庁舎整備が、本年度、本格的に動き始めます。過去にも様々な議論がなされてきましたが、実際に動き始めたのは、平成28年9月議会において、庁舎整備の検討を開始することを説明した時からです。平成29年1月に住民説明会を開催してご意見を伺い、位置を「旧江府中学校跡地」に決め、平成32年度までに建設することを決定したのが平成29年3月議会でした。その時すでに築60年が経過し、地震等の非常事態に際し、職員の生命の危険性や被災者支援への支障が想定され、司令塔としての機能が十分に果たせるか疑問がありました。加えて、分庁舎の解消による業務効率化、住民福祉の向上等を図ることを主な理由として、新庁舎建設が決定されたのです。その後

住民説明会やワークショップ、



▲江府町役場新庁舎建設予定地から望む大山南壁

職員からの意見の聞き取り等を行い、議会特別委員会の議論も踏まえて、詳細を詰めてきました。現在の予定では今年8月の着工、令和2年中の完成です。昭和の時代からの懸案が、平成の時代を超え、まさに今、令和の時代に解決しようとしています。しかし、建物ができても終わりではありません。所期の目的を達成するためには、何をすればいいのか、職員一人ひとりが考えて行動しなければなりません。住民のみなさんのためになる江府町役場を目指して、これからも、ハード、ソフト含めて具体的な取り組みを進めていきます。

「3000人の楽しい町

プロジェクトチーム」(※)活動報告

これまでの活動はこちら!



これまでの活動の様子はQRコードを読み取ることでご覧いただけます。

今年度のプロジェクトチームは、「しごとのかたち」見直しアクション2019と銘打って、職場の環境・働き方の改善に取り組んでいきます。新庁舎への移転に向けて解決しなければならぬ課題のひとつが、書類の整理です。スペースの都合上、新しい建物に現在の庁舎に保管されているすべての書類を持っていくことはできません。不要な書類の廃棄、必要な書類の整理は不可欠ですが、併せて書類の管理方法の見直しを行わなければなりません。そこで、効率よく文書を保管・管理し、行政の運営をよりスムーズに進めるための仕組みが求められます。これを「ファイリングシステム」といいます。役場が取り扱う公文書には、保存しなければならない年限が定められています。これは文書の種類によって期間が異なっており、数年間保存すればよいものもあれば、永年にわたって保存しなければならない文書もあります。このような文書を課ご

と、業務ごとに管理するときに必要なのは、統一の、しかも簡単なルールです。ファイリングシステムは(名前こそハイテクなシステムの前ですが)、そのような文書を保管するルールのことです。従来のように文書を簿冊に綴って保管するのではなく、業務ごとのボックスに入れて中を仕切り紙で分類する、という方法で管理します。この方法を取り入れることの最大のメリットは、保存期限を把握しやすく、移管や廃棄を行いやすいという点にあります。個人情報保護や公文書の適切な保管といった機運の高まりからファイリングシステムを導入する自治体は増えていきます。一方で、昭和の時代からすでに運用している自治体もあります。非常に驚きです。プロジェクトチームでは、このような手法を職場内で紹介することをはじめとして、令和の時代にふさわしい職場環境づくりに取り組んでいきます。

※「3000人の楽しい町」プロジェクトチームとは・・・有志の20～30歳代の江府町役場職員と、その職員から選出されたリーダーで構成。今年度で4期目を迎え、楽しい町の支障となる様々な課題について課を越えて取り組む。